

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成
平成 20 年 1 月15日

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470104060
法人名	社会福祉法人 温寿会
事業所名	グループホーム庄の原苑
訪問調査日	平成20年 1月15日
評価確定日	平成20年 4月15日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について
外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4470104060
法人名	社会福祉法人 温寿会
事業所名	グループホーム庄の原苑
所在地	大分市大字荏隈字庄ノ原1797番地 (電話)097-573-6808

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年 1月15日	評価確定日	平成20年 4月15日

【情報提供票より】(平成19年12月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年 2月18日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 9.8人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

(4)利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低 77 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	庄の原クリニック 大分三愛メディカルセンター 小深田消化器病院 大分岡病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 高台の住宅地にあり自然環境に恵まれ、敷地内には法人の施設があり車イス利用者は、建物内を自由に移動し気分転換をして交流を図っている。
2. 部屋に閉じこもることなく、4人くらいで好きな音楽をミュージックテーブルで楽しく演奏するなど明るい笑い声が聞こえている。
3. 災害訓練は消防署の協力で実際に地震の揺れを体感したり、法人と合同で夜間訓練も行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 評価の意義を全職員で話し合い、前回に比べ少しづつ理解でき、改善点も明確になり、改善計画書を作成し項目ごとに徐々に改善に向けた取り組みができています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は各ユニットで取り組み、記入後に管理者がまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催し、自治会長、民生児童委員、地域包括支援センターの管理者、家族の代表が参加し、グループホームの活動報告、事故報告、評価の結果を報告し、助言や意見をもらい協力を得ている。利用者と地域住民の関わりができていくような議題の提案もしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設置しており、面会時に意見や要望が出しやすい雰囲気づくりに努めている。今年より家族会も発足し運営推進会議で家族の代表としての意見、要望を聞く準備もできている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事や公民館活動などに参加し、地域の方とは簡単な会話などはできているが、自治会に加入し、地域の方がグループホームを訪問する等地域との関係を密にしていきたいことが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、利用者の尊厳を大切にし楽しみを共有でき、地域社会の一員として、地域の中での暮らしを盛り込んだものである。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいた日常的な取り組みが日々の実践に活かされていない。	○	地域や公民館活動の中で、理念の共有はできつつあるが、日常的な取り組みの中で具体化し、理念が反映されたサービス提供が望まれる。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や公民館活動などに参加し、地域の方との交流はできているが、自治会には加入していない。	○	自治会へ加入し、地域の行事に参加したりして、地元の方と交流を深めていくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価については全職員で話し合い、前回の受審後に改善計画書を作成し、徐々に改善への取り組みができている。自己評価は各ユニットで行い管理者がまとめ評価票を作成している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し自治会会長、民生児童委員、地域包括支援センターの管理者等の参加により、助言や協力を得ている。また、議題として利用者と地域住民との関わりが多くなることを提案している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との連携はできており、職員の異動についてのアドバイスをもらったり、書類作成に関する相談等を随時行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や来訪時に日常の様子や健康状態を報告しているが、訪問のない家族には請求書を発送する時に、担当者が様子を書き同封している。グループホーム便り『ほのぼの通信』は不定期に発行している。	○	家族の知りたい情報をきめ細かく知らせるためにも『ほのぼの通信』の定期的な発行が望まれる。また、家族会の発足の予定もあるので今後の取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しており、来訪時に意見や要望を言いやすい雰囲気作りをしている。また、法人内に第三者のサービス相談委員会を設置し、意見や要望を聞く体制はできている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や法人内の異動は少なく、利用者や家族へのダメージはない。また、職員の離職についても運営者は職員の考えを十分に聞きとり指導をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加には積極的に取り組み、2ヶ月に1度は参加し、結果報告し内容の共有はできている。法人内研修も1ヶ月に1回勤務後に行って全員の参加を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設2年目を迎え、研修資料を通し自主参加を促し、休みを利用して宅老所、グループホーム大分県連絡会に参加した職員はいるが、交流の機会を作るまでには至ってない。	○	同業者との交流の場を持ち、今後のサービスの質の向上に向けた意見交換等の取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	老人保健施設、デイサービスセンター、介護老人福祉施設等、系列の施設からの入所が多く個々の性格を把握しコミュニケーションをとり、徐々に馴染めるような働きかけを行い、家族との相談も十分にできている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除を一緒にしたり、おしぼり洗いや、家事を共にし、共通の話題を作り上げ、できることへの自信回復につながるケアに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や生活歴記録の情報をもとに、音楽の好きな利用者、本の好きな利用者等、個々の趣味に合わせて楽しく過ごしてもらえるよう生活プランを立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望に沿ったものにするために認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を取り入れ主訴や要望を取り入れた介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の介護計画の見直しには全職員が参加し話し合いを行い、状態変化の場合は関係者と話し合い見直しについての計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お盆のお墓参りに同行したり、病院への通院介助も希望に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診以外は家族と相談し、許可を得て対応している。かかりつけ医への通院は家族ができない場合は、協力医と連携をとり、皮膚科、整形外科等の受診の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けたサービスの変更については相談、助言を行っているが、早い段階からのかかりつけ医や職員、家族の意見等方針の共有は行われていない。	○	重度化や終末期についてはできるだけ早い段階で、サービス変更に関する相談援助を行い、かかりつけ医や職員、家族の意見、方針の統一が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本方針でも掲げられている利用者の尊厳の保持、心を傷つけない言葉の配慮などに努めているが、トイレ誘導の声かけへの配慮が不十分な場面も見られる。記録については、個人情報保護を厳守し玄関にも掲示している。	○	一人ひとりのプライバシーを大切に、尊厳を重視したトイレ誘導の声かけ等にも配慮が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日は何をしたいか、意向、気持ちを聞いて体調や、気分に応じた支援をしている。また、部屋でじっとしていた方に対しても利用者の意思を尊重して状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事の好きな利用者は米砥ぎをしたり、箸やおしぼりを並べたり、準備や片付けを行っており、職員も同じテーブルと一緒に食べ終わった時には感謝の言葉を伝えている。しかし、食事中は楽しく会話する姿も少なく、食事についても、汁物や煮物が冷めている。	○	副食はグループホーム内で作っていないので、家庭で食べる時のように温かいものを楽しく食べる雰囲気作りが求められる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番は概ね決められ、入浴、着脱、見回りスタッフが3人以上必要なため、職員サイドの判断で週3回と入浴日が決められている。毎日入りたい希望もあり、利用者本位の支援となっていない。	○	馴染みの人と一緒に入浴ができるような場面作りを話し合っているが、希望があれば、いつでも入れるよう利用者の要望に沿った支援が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	長年してきた家事、例えば洗濯物干しや料理の盛り付けなどを職員と一緒にしたり、家族が連れて出たいと言えば希望を聞き家族との関係が途絶えないような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に良く出かけ閉じこもりを防いでいる、また、ショッピングセンターに同行し、利用者が自分の財布で支払うようにして心身の活性につながるような支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵を掛けないケアに努め、利用者に心理的な圧迫感を持たせない配慮を心がけ、玄関、窓などは全て施錠しておらず自由に開閉ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災委員を設置し、3ヶ月に1回法人施設と共同で夜間訓練をしている。グループホームとしても月1回避難訓練を行い消防署の協力で車の中で地震の体感訓練も行っている。しかし、現在のところ地域住民からの協力は得られていない。備蓄については法人内で準備している。	○	運営推進会議を活用する等、地域住民の支援、協力が得られるような取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎回記録し、個別の摂取量は確認できている。また、月1回は給食会議をしているが、栄養士等の専門的意見を聞くところまでには至っていない。	○	法人の管理栄養士や市の保健師などに栄養や食事のバランスについて助言や指導をしてもらうことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の行事や季節感のある花や絵を作成し、壁に貼っている。また、共用空間も明るく、台所からご飯を炊くにおいが漂ってくるなど生活感もあり、利用者の方が居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や、家族の写真、花を飾り利用者が居心地よいと思える部屋作りをしている。職員もやすらぎが感じられる部屋を作るために家族や利用者で創意工夫をし、個性のある部屋作りを目指している。		